

令和7年度 第3回小平市図書館協議会要録

1 日 時 令和7年9月25日（木）午後2時から3時30分まで

2 会 場 中央図書館 2階会議室

3 出席者 委員：落合会長、伊藤副会長、阿部委員、石井委員、平向委員、堀内委員、渡辺委員
内田委員、三田地委員、 計9名（欠席3名）

事務局：松本中央図書館長、吉崎（中央図書館長補佐兼庶務担当係長）、大竹（小川西町図書館長）、菅家（中央図書館サービス担当係長）、田中（中央図書館資料担当係長）、小林（中央図書館歴史公文書・調査担当係長）、小山（仲町図書館長）、横山地域コミュニティ担当課長、下田コミュニティ担当係長 計9名

4 傍 聴 なし

5 配付資料

- ・小川駅西口複合施設等の概要 (資料No.1)
- ・小平市立図書館等の報告と今後の予定 (資料No.2)
- ・第4次子ども読書活動推進計画 令和6年度進捗状況の概要 (資料No.3-1)
- ・第4次子ども読書活動推進計画 令和6年度進捗状況 (資料No.3-2)
- ・小平市立図書館における公衆無線 LAN サービスについて (資料No.4)
- ・小平市立図書館休館のお知らせ (資料No.5)

6 議事

(1)報告事項

報告事項についての意見・質疑応答

①小川駅西口複合施設について

会 長：小川駅西口複合施設の愛称募集の応募総数はいくつあったか。

事 務 局（地域コミュニティ担当）：

有効な内容は188件、選考審査で3件に絞り投票を実施する予定である。

委 員：応募者は市内の方か。

事 務 局（地域コミュニティ担当）：

応募は市内に在住・在勤又は、今後この施設を利用する方が選択した上で回答している。

委 員：現在の小川西町図書館は、閲覧スペースが十分に設けられていた。図書館部分の椅子や閲覧スペースの配置はどのようになるのか。

事 務 局（地域コミュニティ担当）：

コンセプトは「本棚に囲まれた居心地の良い空間」である。図書館とそれ以外を一体的な空間とする。落ち着いた環境で本を読みたいという意見もあるので、閲覧室を5階に設置

する。

事務局：こども用スペースが4階にあり、5階の階段付近に椅子を配置し、中高生が学習できるようにしている。

委員：小川西町図書館はゆったりとしているが、色々な施設が入ることで図書館スペースに不安を感じる。

事務局（地域コミュニティ担当）：

色々な施設が組み合わさり、今までの図書館のよりも音を出すことが許容される施設を考えている。子連れの方も入りやすい。4階は子ども向け、5階に大人の本が配架されるので上手く使い分けていただきたいと考えている。床面積は今までの施設を合わせたものよりも広がる。駅前の立地であり、これまで以上の利用を期待するが、混雑の度合いは未知数である。

事務局：市役所の大きな方針から、施設の面積は2割減がうたわれている。今回は新たな機能が追加されるため、他の複合施設に比べて余裕がある。

委員：新たな機能として個人向け貸出スペースや音楽スタジオがあるが、対象は大人か、中高生等は使えるのか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

音楽スタジオは公共施設を使う機会の無かった若い世代に対し、使いたくなる施設があると良いという意見から設置する経緯がある。中高生にも使って欲しいと考えている。個人貸出スペースは有料であるが、民間のスタジオ等と比較すると安価であり、使いやすいと思われる。年齢の制限は無い。

会長：スタジオの料金は、中央公民館の地下のものと同程度の料金設定か。

事務局（地域コミュニティ担当）：

公民館は団体登録し、社会教育の目的で使うのであれば減免の無料で使えることになっていると思われる。こちらは広く個人でも使えるが、一定の金額をいただくものである。

会長：4階、5階の図書館は、本の管理のBDS（蔵書紛失防止システム）を何処に設置するのか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

4階、5階共用部分の出入口にそれぞれ設置する。

会長：賑わいスペースなどで本を読む時は、貸出しの手続きを取る必要があるか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

外の広場は地上のため4階・5階とは距離があるので、貸出しの手続きは必要になる。

会長：書架の間や、空いたスペースには椅子や小さい机などは置かれるのか。そこでも全て手続きをしなければ読むことはできないのか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

施設内にフリースペースや学習等の場所が設置され、貸出し手続きせずに読書等が可能である。

事務局：廊下部分から入るところにBDS（蔵書紛失防止システム）を置く。貸し部屋部分や併設するカフェに、本を持ち込み読むことも可能。

会長：貸出し手続きは全て自動になるか。

事務局：自動貸出機を導入し、予約棚も設ける。

会長：そのような機器の案内、相談に対応する職員を今回の事業者は配置するか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

レファレンスや使い方、場所の案内も含めフロアーに職員が配置される。

会長：事業者の選定が進んでいると聞いたが、図書館機能の仕様書をこの協議会に示されていない。

事務局（地域コミュニティ担当）：

細かい部分の仕様書は選定された事業者とこれから詰めていくが、募集段階のものをご覧いただくことは可能である。

会長：前回も協議会が求めていたので、対応をお願いしたい。

会長：事業者はいつ決定するか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

9月議会の最終日の議決を経て決定する。

会長：最終候補に残った事業者は。

事務局（地域コミュニティ担当）：

シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社である。都内で複数の図書館指定管理者としての実績がある。全国でも図書館をはじめとした公共施設の指定管理を行っている。

会長：応募数は。

事務局（地域コミュニティ担当）：

2社であった。

会長：もう一社はどこか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

共同体を組み TRC の入った小平フレンドシッププロジェクトである。最終的にはシダックスの点数が上回った。

委員：決め手は何か。シダックスは社員食堂等から始まった事業者である、TRCが入っていた方が良いのではないか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

外部の有識者3名を含む、5名の審査で点数を付けた。提案の資料やプレゼンの説明の結果、実績に基づいて安定した管理運営が行える印象を得たのではと思われる。

委員：都内で指定管理を行っている自治体へヒアリングなどは行ったか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

内々には行った。

事務局：今回は図書館だけでなく複合施設である。TRCは図書館事業の最大手であるが、複合施設と新たな機能も追加された観点から採点している。社名は伏せて客観的な審査を行った。

会長：その事業者の図書館業務の実績や知識はプレゼンの中ではどのように示されたか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

例えば名古屋市立図書館の指定管理を行っている。館長は地域との交流に実績があり、そのような人材をセンター長としたいというプレゼンがあった。

委 員：20 年程前に大新東が運営する池袋の図書館で勤務した経験がある。シダックスと合併したが、図書館の運営知識は持っていると思われる。

事 務 局：シダックスはカラオケボックスの運営会社というイメージがあるが、合併後は多角的に全国展開し地域に根差すという思いが強い。

委 員：今回採用される事業者は指定管理を受ける期間が決まっているのか。

事 務 局（地域コミュニティ担当）：
今回は4年8カ月であるが、通常は5年間である。

委 員：その後は見直しや評価をするのか？

事 務 局（地域コミュニティ担当）：
再度募集することになる。

事 務 局：指定管理や業務委託の選定は基本的に入札が行われる。その際は事業者が替わることもあり、節目では必ず見直し・選定することになる。

委 員：それまでの何年間かを見直すこともあるのか。

事 務 局：全事業者の有利、不利は無く改めて選定する。

委 員：職場ではシステムを5年で入れ替えたが不評である。一定のルールで同様に選定しているようだが難しさがある。

事 務 局：慣れているものは支障無いが、使い慣れると変えたものも良くなる。新たなものは機能的に向上していることが当然ある。

会 長：図書館業務の運営について、指定管理との調整内容はできるだけ協議会にも伝えて、皆さんの意見を参考にして欲しい。また、指定管理者がこれまで通りの運営をできるか心配している。

資料を基に②から⑥まで続けて事務局から報告があった。

- ②図書館運営状況について（図書館行事等の報告と今後の予定について）
- ③第4次子ども読書活動推進計画 令和6年度進捗状況について
- ④小平市立図書館における公衆無線 LAN サービスについて
- ⑤小平市立図書館の臨時休館について
- ⑥市議会9月定例会について

委 員：小平市第4次子ども読書活動推進計画について、令和7年度以降の第5次はあるか。図書館の催しは各館で企画しているのか。

事 務 局：第5次は7年度から11年度までを策定した。図書館のホームページでは公開しているが、冊子版は後ほど配付する。催しは各館で独自に企画している。

委 員：公民館では催しを市民参加の事業企画委員会で検討している。図書館はそのような方法ではないのか。

事 務 局：各館長が集まる会議が毎月あり、催しのアイデアを共有している。

会 長：仲町図書館は公民館と一緒に事業を展開している印象がある。

委 員：仲町図書館の2階でコンサートをやっているところを見かけた。国立音楽大学の学生さ

んがバイオリンなどの楽器を演奏し、こども達が楽しそうにしていた。

事務局：仲町図書館のコンサートは、夜の開催も含め5回実施した。国立音楽大学のグループは、幼児教育と声楽専攻のグループが関わっている。夜の開催では、閉館後にキャンドルライトなどで雰囲気を作り、大人を対象としてミュージカルの曲などを披露した。

昼間の開催では、こどもを対象として通常の開館中に実施した。同じフロアで読書をする利用者がいるが、イベントに関して否定的な意見はこれまで無い。施設の特徴もあり、許容されていると感じている。

副会長：仲町図書館の2階ラウンジコーナーはスペースがあるようなイメージがないが、楽器等を持込めたのか。

事務局：2階奥のカーペット敷きのスペースで実施した。移動が可能な書架がありスペースを作った。

副会長：大学生など若い方が参加する良い企画だと思う。公民館では事業企画委員会があり、図書館でもそのようなところの知恵を取り入れることも考えられる。

委員：7月30日と8月5日の教員研修の対象は司書ではなく教員か。また、どのような内容か。

事務局：教員の研修であり、民間企業など地域に出るものの一つとして図書館が受入れた。中高生の職場体験と同様の内容もあり、今回は3名であった。

委員：小平市子ども読書推進計画の進捗状況であるが、実績の効果がどの程度だったのか。例えば、資料の2ページに健診受診者の1,198名に登録用紙1,194名分配付したとあるが、この中で何名が登録を出したかということである。前回配付の統計データから読み解くことはできないのか。

事務局：本計画で数値目標は無い。こどもの読書については数値化され難く、効果を測ることや統計データから読み取ることは困難である。

会長：調査した数値はそれが生かされる方向で進め、関連することの試みはして欲しい。教員研修は社会貢献など、資質向上のため行われている。図書館で行うことがここ数年増えている。

9月24日の学校司書研修は全員参加しているか、内容はどのようなものか。

*参加された委員から報告があった。

委員：27校に通知をし、特別な事情が無い限り参加している。今回は元中央図書館長の蛭田氏から、学校司書の体制が始まった経緯や地域資料について講義があった。

会長：この研修は各学校の司書教諭にも声を掛けているのか。

委員：司書教諭には連絡していない。司書教諭等連絡会議では司書教諭と学校司書が集まる。司書教諭にも聴いて欲しい内容もあるが授業の都合などで難しい。

委員：研修は仕事の一環として参加するのか。

委員：年間勤務日の中で行っている。

事務局：この研修は年間5回程度行っている。学校司書は各校に一人の勤務であるため、ほぼ毎回、情報交換の時間を設けている。内容としては著作権に関することや、学校図書館利用の取組事例を聞く機会などがあった。研修の機会に知識を深め、情報共有の場として

有効に活用している。

委員：子ども読書活動推進計画の5ページの実績で「全ての小・中学校で読書活動に関わる全体計画及び年間指導計画を作成した。」とある。学校によっては計画の作成で終わってしまい、計画に基づいた資料の用意を学校司書に依頼することなどが無い。学校側と学校図書館・学校司書との連携に疑問がある。

会長：現状は計画が作成され、達成度がある程度評価されても、現場では周知が不足している。学校で図書館に関わる立場の人の連携が更に必要である。

子ども読書活動推進計画が出来上がって、それぞれに行き渡り理解しなければならない。学校司書の活動を学校側も理解するよう、何をすべきか課題が残る。今後、校長の委員が出席された際にこの課題を取り上げたい。

(2) 協議事項

なし

(3) その他

なし

(次回、令和7年11月6日(木) 午後2時から開催予定)